

## 調査報告

## 校外実習に関する調査研究

単位増加による影響について

木 藤 宏 子

The Effect of Increased Credits on the Field  
Work of Dietetics Students

KITO Hiroko

## 緒 言

本学短期大学部食物栄養学科では給食実務により力の発揮できる栄養士の養成を目指し、校内実習である「給食管理実習Ⅰ」を2単位として力点を置いてきている。平成14年のカリキュラム改正では、平成15年度から改組転換し管理栄養士養成課程となる中で、校外実習（給食の運営）も1単位から2単位に改正した。これは、短期大学部卒業栄養士が就職先から求められる力は、より給食実務に強い栄養士、つまり現場のスペシャリストとしての栄養士になってきていることを受けてのことである。2単位に増加した実習を充実したものにするために、平成14年度1単位であった校外実習について調査を実施し、本学研究紀要第27号に「校外実習に関する調査研究 学生の取り組みと事前教育の影響について」として報告をした。今回は平成14年

度の調査結果を踏まえて平成15年度の事前指導を行い、同一施設で1単位から2単位に増加した校外実習について調査し、前回調査結果と比較検討した。校外実習で必要とされた能力や実習先の指導者数や事前準備に要した時間、内容等に影響が見られ、今後、管理栄養士課程において臨地実習施設を選択する時、同一施設を選択する効果についても参考となる結果が得られたので報告する。

## 方 法

## 1. 調査対象者

平成15年度校外実習「給食管理実習Ⅱ」実施者113人を対象とした。

## 2. 調査方法

平成16年1月30日から2月4日の期間、授業

修了後に調査用紙を配布，その場で記入してもらい，回収。配布113人に対し，有効回収数102人。有効回収率は90.3%であった。

### 3. 調査内容

調査用紙は実習施設名，氏名を記入してもらい，実習全体の印象，内容，指導者，事前準備，実習計画書，実習で必要とされた能力，前提授業との関係，実習報告書の活用，校外実習の感想，進路選択への影響など22問設定した。

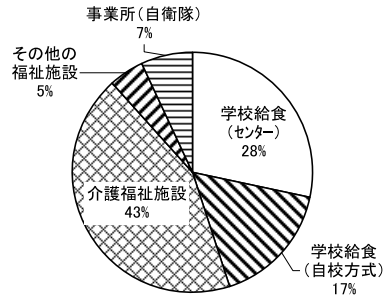


図1 実習施設の分類

### 4. 統計処理

調査データは，データ分析ソフトSPSS10.0Jを用いて集計，クロス集計にはカイ二乗検定有意水準 ( $p < 0.05$  又は  $p < 0.01$ ) を行った。

## 結 果

#### 1. 調査対象の概要

調査対象者は平成15年6月30日から平成16年1月30日までの期間に2単位(月から金曜日までの5日間×2週間)の校外実習を実施しており，88.5%の対象者が6月30日から7月11日までの期間に実施している。性別は男性6人(5.9%)，女性96人(94.1%)であった。実習人数1～3人であり，1人(52.9%)，2人(39.2%)，3人(7.8%)であった。

校外実習施設は学校給食施設と福祉施設と事業所施設に大別できるが，施設の特徴から前回調査同様に学校給食(共同調理場方式，以下センター方式とする)，学校給食(単独校調理場方式，以下自校方式とする)，介護福祉施設，その他福祉施設，事業所(自衛隊給食)の5つに分類した結果(図1)，学校給食(センター方式・自校方式)が合わせて46人(45.1%)，介護福祉施設が44人(43.1%)となり，昨年(43.2%，44.1%)とほぼ同数になった。平成14年度1単位の調査(以降前回とする)と比

表1 調査対象の概要(前回との比較)

項 目		(% )	
		今回(2単位) n=102	前回(1単位) n=111
性別	女	94.1	93.7
	男	5.9	6.3
実習人数	1人	52.9	45.0
	2人	39.2	36.9
	3人	7.8	9.9
	4人	0.0	3.6
	5人	0.0	4.5
実習施設	学校給食(センター)	28.4	26.1
	学校給食(自校方式)	16.7	17.1
	介護福祉施設	43.1	44.1
	その他福祉施設	4.9	8.1
	事業所(自衛隊)	6.9	4.5

較して(表1)調査対象の概要に単位(期間)以外の大きな差異は認められなかった。

#### 2. 校外実習の印象・評価・期間について

実習に対する全体の印象(表2)は8割以上が良い印象を持ち，悪い印象「良くなかった」「とても良くなかった」を持つ学生は昨年3.6%であったのが0.0%になった。実習の内容(表3)については9割以上(95.1%)が「適切」「ほぼ適切」と答えていた。今回調べた実習期間の長さについて(図2)は「丁度良い」が80.4%，「長い」16.7%になり，大半の学生が2週間の実習を適切な期間と受けとめていた。

表2 実習全体の印象(前回との比較)

項 目	(%)	
	今回(2単位) n=102	前回(1単位) n=111
とても良かった	35.3	37.8
良かった	47.1	48.6
どちらともいえない	17.6	9.9
良くなかった	0.0	1.8
とても良くなかった	0.0	1.8

表3 実習内容の学生評価(前回との比較)

項 目	(%)	
	今回(2単位) n=102	前回(1単位) n=111
適 切	26.5	41.4
ほぼ適切	68.6	48.6
不 適 切	2.9	6.3
よく分からない	2.0	3.6

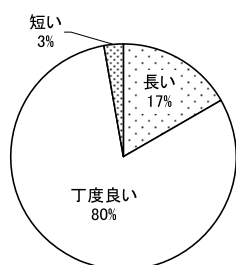


図2 実習期間の長さ

表4 事前準備の時間(前回との比較)

項 目	(%)	
	今回(2単位) n=102	前回(1単位) n=111
3時間以内	15.7	16.2
5時間位	17.6	12.6
8時間位	11.8	18.0
16時間位	10.8	15.3
24時間位	8.8	16.2
32時間位	9.8	9.0
40時間以上	23.5	12.6

### 3. 校外実習期間中の指導者について

前回調査との比較(図3・4)として、4職種以上の指導者から指導を受けた人が43.2%から52.9%になり、その中の7職種以上の指導者は6.3%から9.8%にともに増加した。特に「職員・教員他」からの指導が37.8%から52.9%になり、実習の広がりを示す傾向が見られた。

### 4. 事前準備について

事前準備の時間(表4)については、前回(1単位)に比べて、「40時間以上」が12.6%から23.5%とほぼ倍になった。実習施設別にクロス集計(表5)すると「事業所(自衛隊)」以外は全て増加しており、「その他福祉施設」は数が少ない(5人)ので0.0%から40.0%(2人)、「介護福祉施設」「学校給食(センター)」ではそれぞれ6.1%から13.6%、17.2%から34.5%になり、前回多かった「学校給食(自校方式)」も26.3%から29.4%になった。しかし、「介護福祉施設」は前回「8時間位」が介護福祉施設の32.7%で一番高かったが、今回(2単位)は「3時間以内」が29.5%で一番であった。カイ二乗検定(有意水準 $p < 0.05$ )では実習施設別の有意差は見られなかった。

事前準備の内容(図5)については「アンケート調査準備」「栄養指導の演習」が少し減少以外は全て前回より増加し、特に「実施献立など献立作成」は59.5%から71.6%に「栄養指導案の作成」は29.7%から37.3%になった。事前準備の内容を施設別に見たものを前回と比較すると(表6)、前回と同様に「栄養教材の作成」「栄養指導案の作成」「栄養指導の演習」は学校給食施設で高い傾向を示し、 $p < 0.05$ の有意水準で施設別に有意差が見られた。さらに介護福祉施設で高い傾向を示す「アンケート調査準備」も今回は $p < 0.05$ の有意水準で施設別に有意差が見られた。事前準備の自己評価は前回と同様で「少し不十分」が6割を占めた。

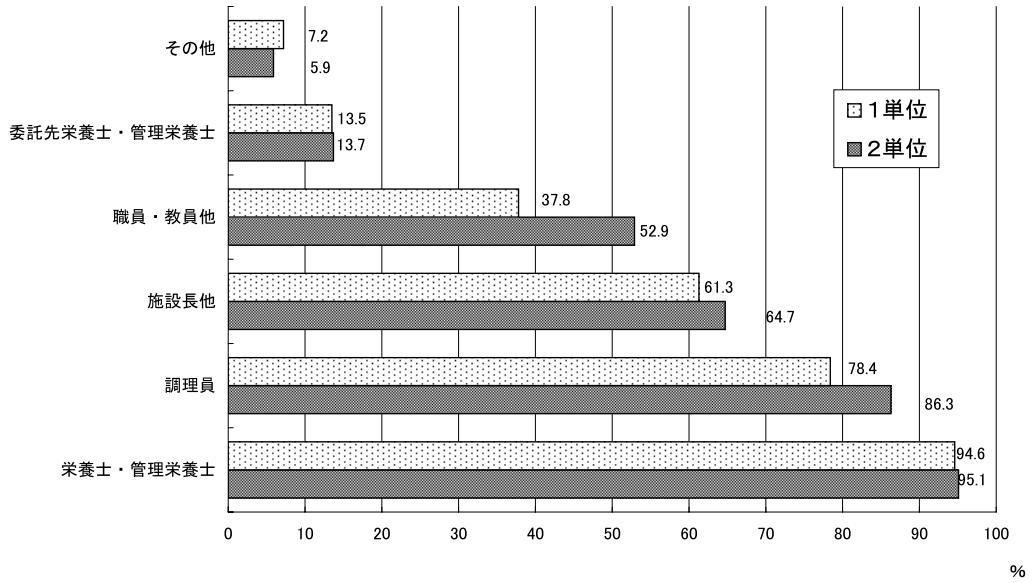


図 3 実習期間中の指導者(職種別)

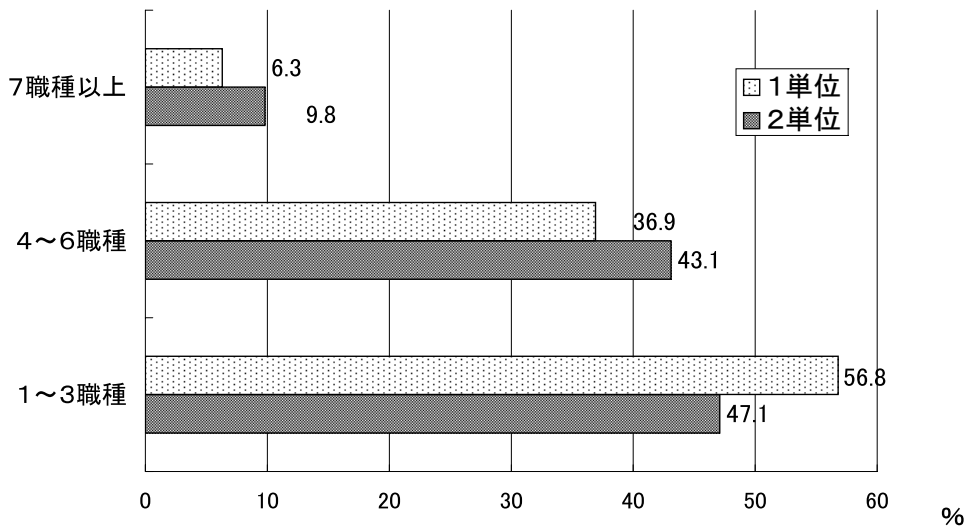


図 4 実習期間中の指導者(件数別)

表5 事前準備の時間と実習施設分類(前回との比較)

2単位(n=102) 1単位(n=111) (%)

項 目		実 習 施 設 の 分 類										
		学校給食 (センター)		学校給食 (自校方式)		介護福祉施設		その他 福祉施設		事業所 (自衛隊)		
		2単位	1単位	2単位	1単位	2単位	1単位	2単位	1単位	2単位	1単位	
事前準備の時間	3時間以内	準備時間の%	6.3	27.8	6.3	0.0	81.3	44.4	0.0	16.7	6.3	11.1
		施設分類の%	3.4	17.2	5.9	0.0	29.5	16.3	0.0	33.3	14.3	40.0
	5時間位	準備時間の%	5.6	21.4	16.7	14.3	55.6	42.9	11.1	14.3	11.1	7.1
		施設分類の%	3.4	10.3	17.6	10.5	22.7	12.2	40.0	22.2	28.6	20.0
	8時間位	準備時間の%	58.3	10.0	0.0	10.0	33.3	80.0	0.0	0.0	8.3	0.0
		施設分類の%	24.1	6.9	0.0	10.5	9.1	32.7	0.0	0.0	14.3	0.0
	16時間位	準備時間の%	27.3	29.4	45.5	23.5	27.3	35.3	0.0	5.9	0.0	5.9
		施設分類の%	10.3	17.2	29.4	21.1	6.8	12.2	0.0	11.1	0.0	20.0
	24時間位	準備時間の%	44.4	33.3	0.0	16.7	44.4	33.3	0.0	16.7	11.1	0.0
		施設分類の%	13.8	20.7	0.0	15.8	9.1	12.2	0.0	33.3	14.3	0.0
	32時間位	準備時間の%	10.0	30.0	30.0	30.0	40.0	40.0	10.0	0.0	10.0	0.0
		施設分類の%	3.4	10.3	17.6	15.8	9.1	8.2	20.0	0.0	14.3	0.0
	40時間位	準備時間の%	41.7	35.7	20.8	35.7	25.0	21.4	8.3	0.0	4.2	7.1
		施設分類の%	34.5	17.2	29.4	26.3	13.6	6.1	40.0	0.0	14.3	20.0

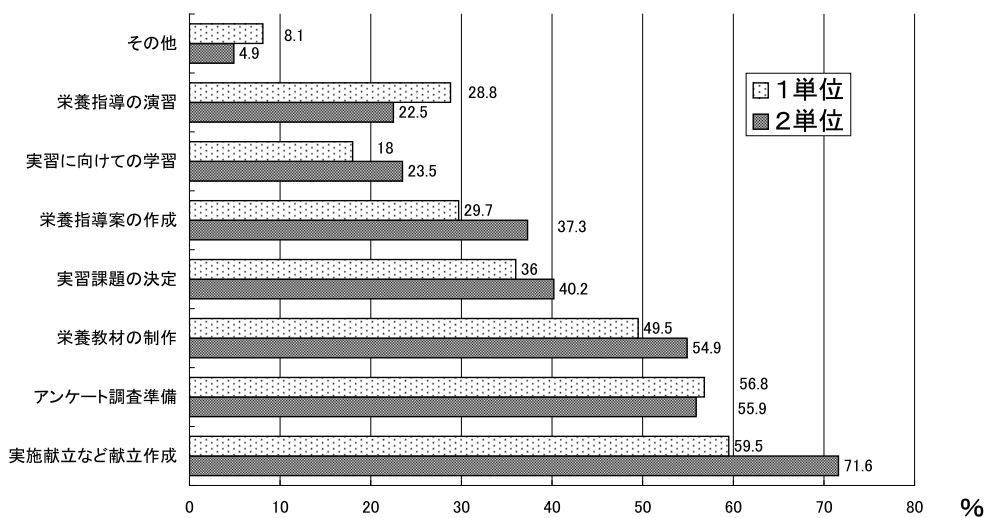


図5 実習事前準備の内容

表6 実習施設別事前準備の内容(前回との比較)

2単位(n=102) 1単位(n=111)(%)

項目		実習施設の分類					全 体
		学校給食 (センター)	学校給食 (自校方式)	介護福祉 施設	その他 福祉施設	事業所 (自衛隊)	
実施献立など献立作成	2単位	75.9	82.4	63.6	80.0	71.4	71.6
	1単位	62.1	57.9	61.2	55.6	40.0	59.5
アンケート調査準備	2単位	48.3	35.3	72.7	20.0	57.1	55.9 p>0.05
	1単位	48.3	42.1	65.3	44.4	100.0	56.8
栄養教材の制作	2単位	75.9	76.5	36.4	40.0	42.9	54.9 p>0.05
	1単位	51.7	84.2	40.8	22.2	40.0	49.5 p>0.05
実習課題の決定	2単位	41.4	41.2	40.9	60.0	14.3	40.2
	1単位	24.1	31.6	44.9	55.6	0.0	36.0
栄養指導案の作成	2単位	58.6	70.6	15.9	40.0	0.0	37.3 p>0.05
	1単位	48.3	68.4	12.2	0.0	0.0	29.7 p>0.05
実習に向けての学習	2単位	17.2	29.4	25.0	20.0	28.6	23.5
	1単位	10.3	15.8	22.4	22.2	20.0	18.0
栄養指導の演習	2単位	34.5	41.2	6.8	60.0	0.0	22.5 p>0.05
	1単位	55.2	57.9	6.1	11.1	20.0	28.8 p>0.05
その他	2単位	3.4	0.0	9.1	0.0	0.0	4.9
	1単位	3.4	0.0	14.3	0.0	20.0	8.1

### 5. 実習計画書について

今回(2単位)の質問項目に「実習計画書の  
実習先からの提示」を加えた。77.5%が提示さ  
れており、提示された時期(図6)は、「実習  
初日」50.0%、「事前打ち合わせ時」と「実習  
期間以前」を合わせると26.5%であった。

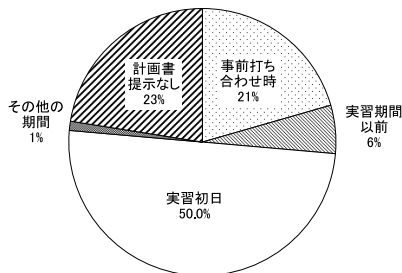


図6 実習計画書の提示について

### 6. 校外実習で一番必要とされた能力

校外実習で一番必要とされた能力(図7)は  
前回(1単位)と比較すると「学力」が17.1%  
から27.5%に大幅に増加し、「技術力」が17.1%  
から6.9%に、「判断力」が9.0%から1.0%に減  
少した。3つまで選択した中での出現頻度(図  
8)と比較すると「礼儀作法」66.7%、「学力」  
62.7%、「精神力」57.8%、「技術力」43.1%と  
なり、前回同様にこの4項目が高い結果になっ  
たが、前回と比べると「精神力」に11.9%増加  
が見られた。

### 7. 校内実習との関連について

校外実習において、校内実習(給食管理実習  
I)で体得した能力で最も活用した力について  
は、今回(2単位)、前回(1単位)の調査結  
果の分類から得られた項目を選択肢として最も  
(1つ)活用した力を選択する形式で答えても

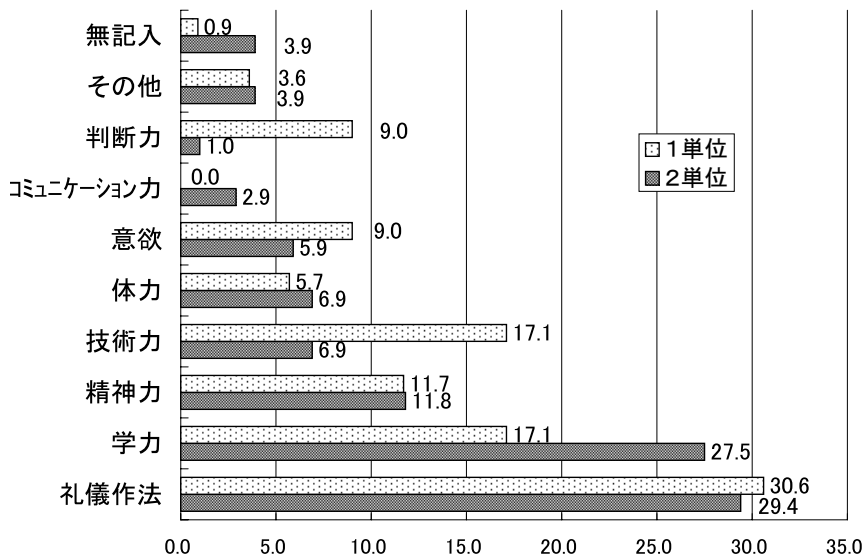


図7 実習で必要とされた能力(最重要)

%

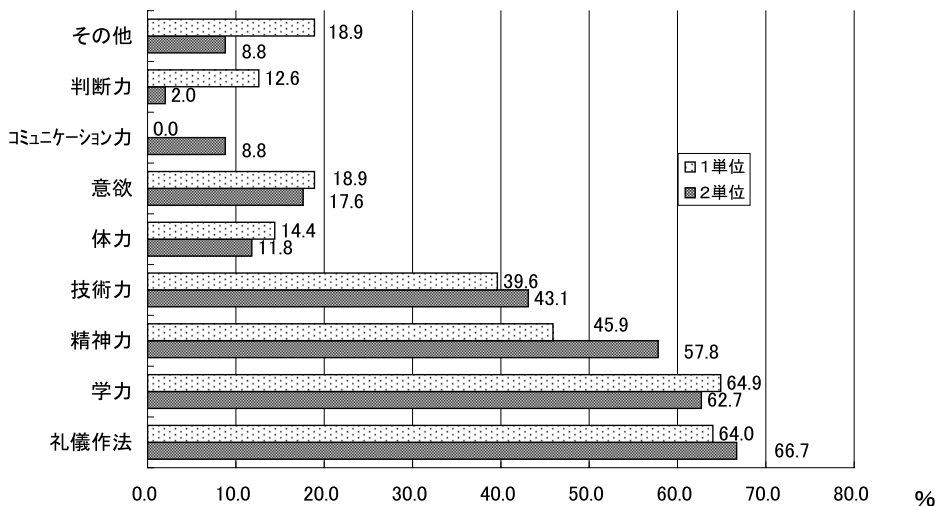


図8 実習で必要とされた能力(3つまで選択)

らった。ところが、1つが明示されていなかった点や他の設問が複数回答であったため、複数回答者が全体の28.4%になり、前回との比較は難しくなった。その中で最も多かったのは、「献立作成」18.6%で、続いて「大量調理技術」13.7%、「調理技術」12.7%であった。

### 8. 校外実習前にもっとつけておきたかった能力

実習前にもっとつけておきたかった能力(図9)は前回(1単位)と今回(2単位)の質問形式が異なる。前回は自由記入であったが、今回は、前回の調査結果の分類から得られた項目を選択肢として(複数回答有り)選択する形式

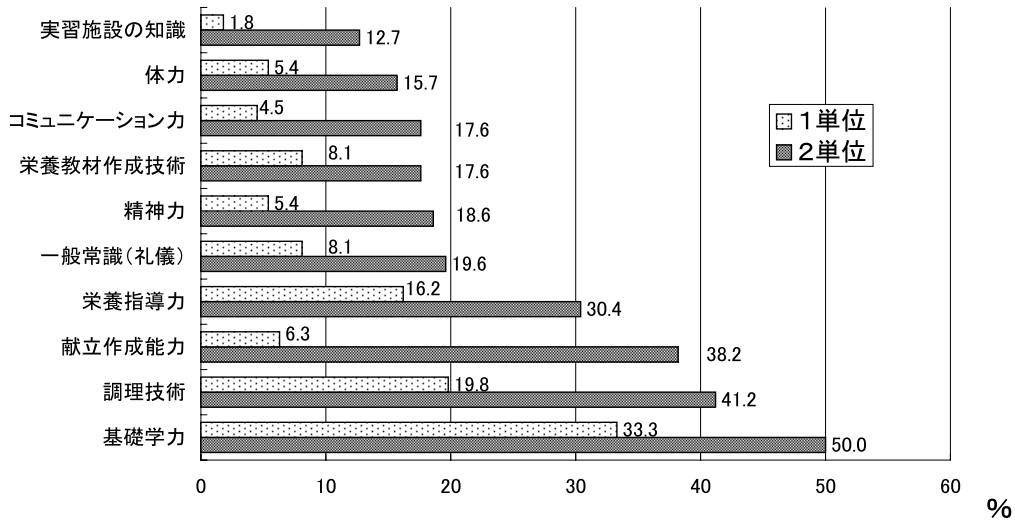


図9 実習前にもっとつけておきたかった能力

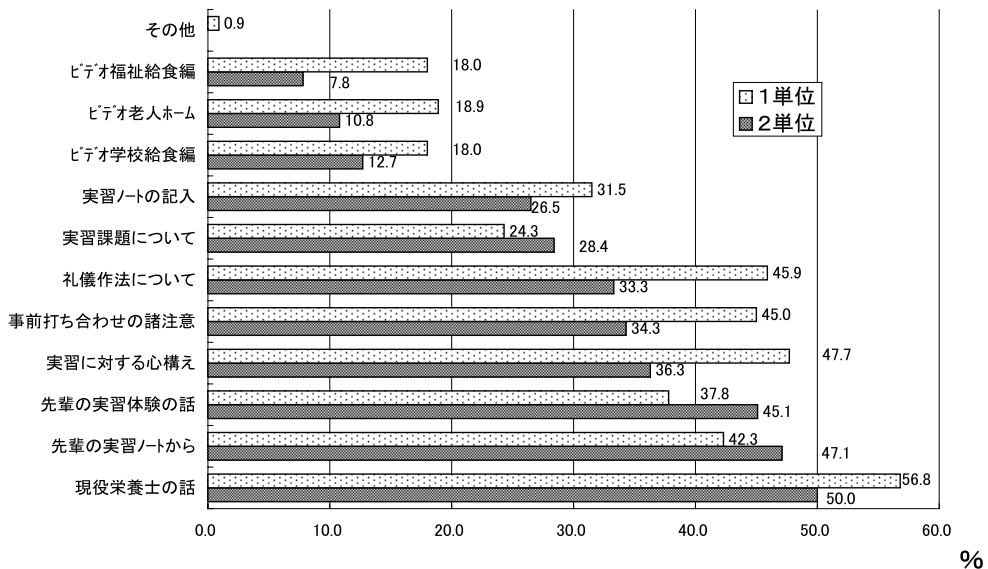


図10 「社会活動の研究」の授業で参考になった内容

で答えてもらった。そのために答えやすい環境になったので、単純に数値の比較をすることはできないが、「基礎学力」33.3%から50.0%、「調理技術」19.8%から41.2%、「献立作成能力」6.3%から38.2%、「栄養指導力」16.2%から30.4%になり、全体的に大幅に増加傾向が見られた。

### 9. 「社会活動の研究」の授業において参考になった内容について

校外実習のガイダンス的要素を含む授業である「社会活動の研究」について、前回(1単位)同様に参考になった授業内容について複数回答をしてもらった。(図10)参考になった内容の選択数は前回は下回ったが、その中で「先輩の実習ノートから」「先輩の実習体験の話」「実習



課題について」が前回より4.8% ,7.3% ,4.1%増加した。また、「実習に対する心構え」「事前打ち合わせの諸注意」「礼儀作法について」「ビデオ福祉給食編」は、前回より11.4% ,10.7% ,12.6% ,10.2%とそれぞれ10%以上下回った。

同様に9割以上の人々が参考に使っていた。活用内容は、「課題の参考」73.5% ,「報告書の作成」63.7% ,「事前学習」39.2% ,「実習先の選択」13.7%となり、全てにおいて前回より活用されていた。(図11)

### 10. 先輩の実習報告書の活用について

先輩の実習報告書(図書館にて閲覧)の活用については、92.2%となり、前回(1単位)と

### 11. 校外実習で最も大変であったこと

校外実習で最もあったこと(図12)については、前回(1単位)「栄養指導」「調理実習」「そ

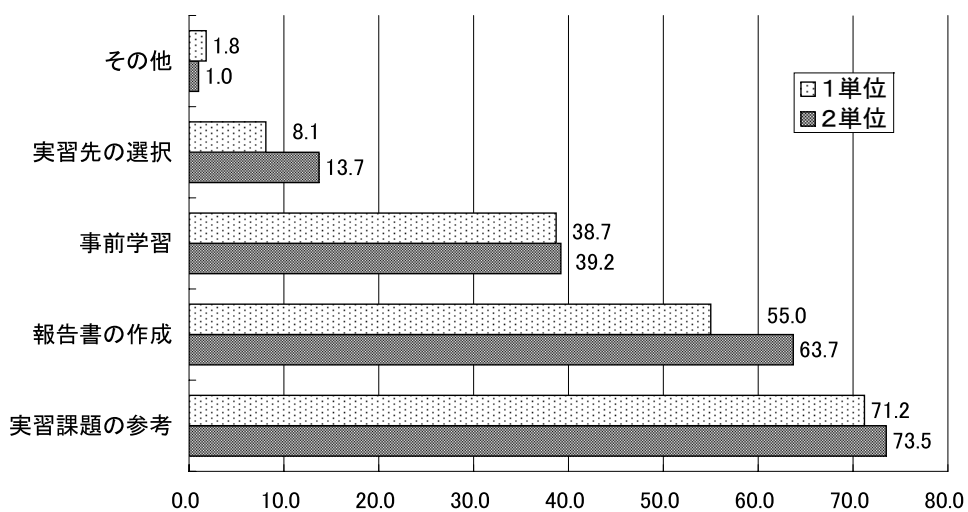


図11 実習報告書の活用

%

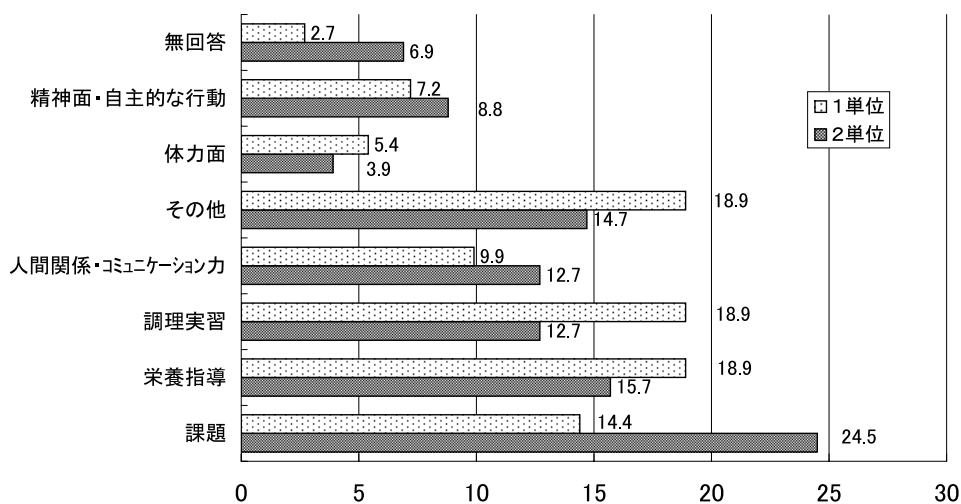


図12 校外実習で最も大変であったこと

%

の他」が18.9%と同値であったのに対し、今回（2単位）は「課題」24.5%、「栄養指導」15.7%、「調理実習」「人間関係・コミュニケーション力」共に12.7%になった。

12. 校外実習で最も良かったことについて

校外実習で最も良かったこと（図13）は、前回（1単位）同様「人間関係・コミュニケーション」が最も高かった。前回と同じく自由に記入する方式であったが、今回（2単位）は「大量調理の経験」11.8%、「自主献立の実施」4.9%が項目として抜き出せる件数になった。

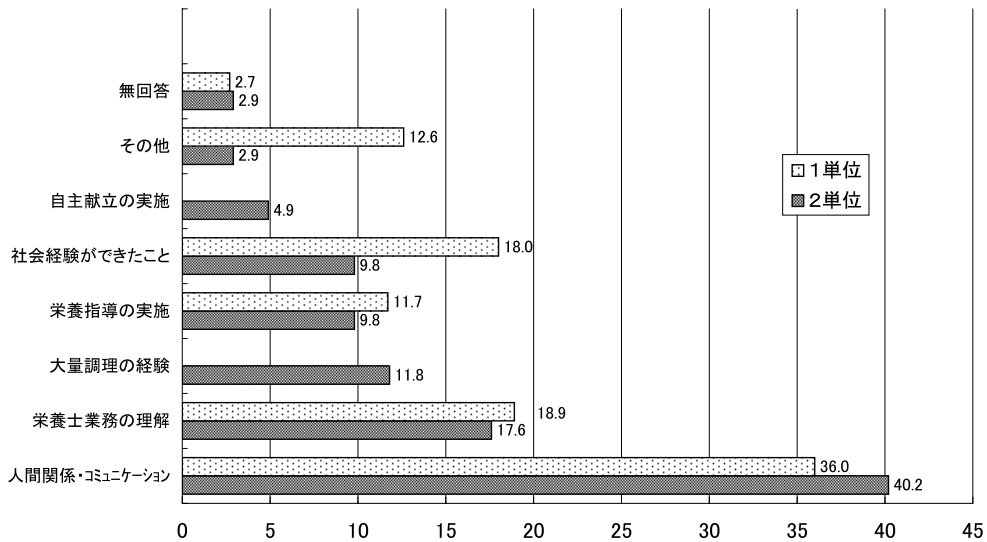


図13 校外実習で最も良かったこと %

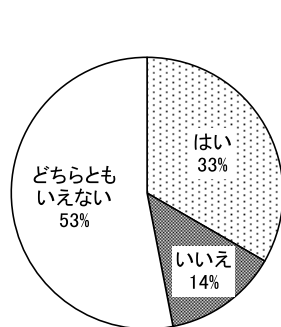


図14 進路選択への影響

13. 校外実習の進路選択への影響について

校外実習の進路選択への影響について（図14・15）は「どちらとも言えない」52.9%（前回45.0%）,「はい（影響あり）」33.3%（前回45.0%）,「いいえ（影響なし）」が13.7%（前回9.9%）であり、影響のあった人の47.1%（前回64.0%）が「栄養士業務への就労希望」であった。

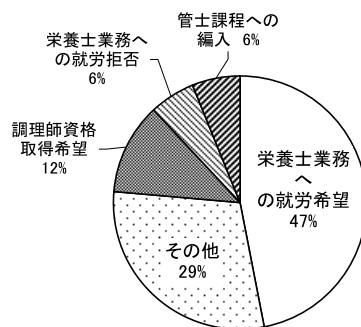


図15 進路選択への影響あり（はい）の内訳

## 考 察

### 1. 今回の調査の意義

カリキュラムの改正を受けて、「臨地・校外実習の実際 改正栄養士法の施行にあたって」が臨地・校外実習のあり方検討会によって検討作成され、(社)日本栄養士会・(社)全国栄養士養成施設協会編2002年版として平成14年10月に発行された。実習を依頼する養成校側と実習を受け入れる施設側の双方に、前者は(社)全国栄養士養成施設協会から、後者は(社)日本栄養士会から実習のあり方について周知徹底された。その体制の中、初めて実施される最初の実習が平成15年度に実施される2年課程の栄養士の校外実習であった。今回の改正では、管理栄養士課程の臨地実習のあり方をどのように捉えるかに力点が置かれていた。しかし、臨地実習に関わらず、校外実習も、実際の仕事の場で管理栄養士・栄養士から実務を学ぶ科目として、実践力を備えた栄養士の養成に大変重要な科目として、今回再認識され、位置付けられたと考える。

そのような中、前回に引き続き、今回の調査を実施した。本来なら、実習生のみならず、実習受け入れ先の施設や実習生の指導担当栄養士からのアンケートも取った方がいいのではないかと考えた。しかしながら、本学の場合、実習の受け入れ先は施設の別は学生の希望を入れながら、出身地の施設を最優先に実習先を選択、決定していく方式を取っているため、前回調査施設に実習生が行く比率が低い点、また、本学の改組転換が同年行われており、アンケートの実施が臨地実習との混同をまねく恐れも感じ、学生側からの調査に止めた。

本学の改組転換後のカリキュラムでは、臨地実習Ⅰ(給食経営管理実習〈給食の運営を含む〉)が2単位になっており、同一施設での実習のあり方は、臨地実習Ⅱ(臨床栄養実習)1単位や

栄養教諭の教育実習2単位と組合せを考える上で、調査結果は参考なる。

### 2. 実習の印象・評価・期間について

実習の期間については、前回は設問として設けていなかったため、前回との比較はできないが、前年が1単位1週間であったことを学生も念頭に置いての回答であったと考えられる。また、学生の中には、他大学の1単位の実習生と1週間共に実習をした学生もおり、2週間の実習期間で良かったという感想は実習ノートや報告書からも寄せられている。前回(1単位)少数ではあったが、悪い印象が3.6%あったのが、0.0%になり、実習内容の学生評価が「適切」「ほぼ適切」が合わせて95.1%になったのは、2週間の実習期間の中で、それなりの実習成果やゆとりある学習ができたためと考えられる。学生による期間の長さについては、「丁度良い」が8割以上になり、実習期間を適切に受けとめていた。その点を確認できるものとして巡回報告書がある。今回(2単位)の実習期間に巡回指導に伺った時に、巡回指導の担当教員から、実習先の施設長や指導栄養士・管理栄養士に「2週間という実習期間について」ご意見を聞かせていただき巡回報告書に記載する項目を設けた。報告書で確認できた67施設の内、「長過ぎる、負担である」と答えたのは1件(1.5%)のみで、「実習内容が2週間の期間に対応することができなく不十分で申し訳なかった」「実習生の受け入れが初めてなのでよく分からない」というような意見をいただいた施設が10件(14.9%)、残りの83.6%が「ゆとりを持って実習指導ができた」「アンケート調査等最後までやり遂げることができる」「自主献立にも取り組める」「本来2週間であるべきである。2週目に見えてくるものがある」「問題ない」「いろいろなことが学べるので良い」等、2週間の期間を適切と評価するご意見を多数いただいたことも、前回よ

り学生の評価が良かったことを表していた。期間が2週間になったことは単位増加そのものなので、巡回報告書から得られたこれらの意見は、この後の実習内容に係る項目に全て関わってくる。

### 3. 校外実習期間中の指導者について

4職種以上、また、7職種以上の指導者から指導を受けた者が増加したのは、単位増加により実習期間が長くなったことで、多くの職種の指導者から指導をしていただける機会が可能になった為と考えられる。4職種とは前回の調査でも述べたが、栄養士・管理栄養士、施設長、調理員の3職種にプラス他職種ということになる。他職種とは、学校給食では、教育実習担当教諭、養護教諭、担任教諭、事務職員等、福祉施設では、介護職員、介護支援専門員、相談員、看護師、医師、作業療法士、言語聴覚士、保育士、寮母、事務職員等があげられる。他職種の方々から指導を受けると言うことは、実習の場も実習施設の限られた範囲に留まらず、行事参加も含めて広がっていくことにもなる。このような体制が、広い視野で栄養士業務・管理栄養士業務を捉えることに繋がり、実習の内容の充実に及ぶと考えられる。

### 4. 事前準備について

全体的には単位増加に伴い、実習課題も多くなることから「40時間以上」掛けているものが10.9%も増加したが(表4)、実習施設別にクロス集計(表5)すると「介護福祉施設」では「3時間以内」が16.3%から29.5%に増加し一番多く、「学校給食(自校方式)」でも0.0%から5.9%に増加している。しかし、「栄養指導案の作成」等に準備を要する「学校給食」では「40時間以上」が「センター」で17.2%から34.5%と2倍に増加し、「自校方式」も26.3%から29.4%と相変わらず高い数値を示している。ま

た、「3時間以内」が一番高かった「介護福祉施設」も「40時間以上」は6.1%から13.6%に2倍になっている。これらの状況は、実習期間が長くなったために課題の作成や検討が、実習期間内に行うことができるゆとりが生じた為、事前の準備を要求されなかった施設もある反面、自主献立を2~3回実施、複数の課題に取り組むなど指導者の栄養士も実習生も共に積極的に実習に向き合った施設もある為と考えられる。実際「指導してからしてもらうので、事前の作成や準備をしなくても良い」と事前の打ち合わせ時に告げられた学生もいた。しかしながら、自ら学び準備する姿勢を持って、より充実した実習になるものと考えことから、事前準備は言われたからするという内容のものではない。「社会活動の研究」の授業を通じて、事前準備の大切さを指導してきたが、より適切な捉えができる指導が必要と感じた。

事前準備の内容については、全体的には前回より、増加の傾向が見られ、特に「実施献立など献立作成」が71.6%と高く、前回より12.1%増加した。前回の調査同様に栄養指導に関する3項目「栄養教材の作成」「栄養指導案の作成」「栄養指導の演習」は実習施設別で有意差( $p > 0.05$ )が見られ、「学校給食」で高い数値を示した。また、前回は「アンケート調査準備」が「介護福祉施設」で高い傾向を示しながらも有意差には至っていなかったが、今回は有意差( $p > 0.05$ )が見られた。これらの事前準備内容から、「学校給食」では栄養指導(食に関する指導)が、「介護福祉施設」では聞き取り調査等のアンケート調査が課題として行われたことがわかる。

事前準備の自己評価が前回同様に「少し不十分」が6割を占めた点については、ガイダンス的要素を持つ「社会活動の研究」の授業について、学生の実習準備の進捗状況をもっと見られるようなスタイルの必要性を感じた。

## 5. 実習計画書について

今回（2単位）からの設問である。77.5%の学生が計画書を指導者から提示されているが、事前に提示されているものは26.5%である。学生は先輩の実習報告書などから情報を得たりしているが、実習前に提示されていると2週間（10日間）に及ぶ実習の全体像がイメージでき、事前準備がどれ位必要か、実習で行いたいと考えている課題の実施時期やまとめの時期など、今取り組まなくてはならないことが見えてくるのではないかと考える。

2単位に増加したことで改めて実習計画について考えてくださった施設も多かったと感じている。理想的には、実習事前打ち合わせ時に計画書を提示いただき、学生が実施したいと考えている課題について検討いただき、実習前に学生に再度計画書を提示していただければ、学生も実習の流れに沿った準備ができるのではと考える。実習の全体像がつかめた学生は2単位の実習を3単位の実習に匹敵するような充実した取り組みを目指せるのではないかと。また、「計画書の提示なし」が22.5%ある。前日には明日何をするのか、告げられるであろうし、書面としては無くても口頭でされているのかも知れないが、2単位の実習には計画書の必要性を強く感じ、養成校としても、今回巡回指導報告書による聞き取りにもあった「実習内容が2週間の期間に対応することができなく不十分で申し訳なかった」「実習生の受け入れが初めてなのでよく分からない」10件（14.9%）があったことを考えると実習計画書のモデルを作成する必要があるように考える。北海道全域及び東北地方にも実習生の配置を依頼する中で、各施設の給食の運営・栄養の指導の状況に幅があり、無理なくできる範囲という曖昧な姿勢が依頼する養成校側にあったことも反省させられる。臨地実習においては勿論のこと、「臨地・校外実習の実際 改正栄養士法の施行にあたって」に

もあるように、実習の受け入れ先と養成施設のよりよい実習の組み立ての協議が必要と考える。

## 6. 校外実習で必要とされた能力と実習前にもっとつけておきたかった能力

今回（2単位）になったことで、校外実習で必要とされた能力は「学力」という確かな力の必要性を感じた学生が多かったことがわかる。また、3つまで選択した中では、実習が2週間に及ぶことが、精神的なプレッシャーになっていたことも「精神力」が増加したことからわかる。また、前回に引き続き、「礼儀作法」「学力」が6割以上を示し、日々の生活指導や勉強の大切さが再認識された。

実習前にもっとつけておきたかった能力では「献立作成能力」が6.3%から38.2%と大幅な増加を示している。これは自主献立の実施を経験している学生が多いことを示している。多くの学生が自主献立の実施を経験できたのは、実習単位の増加により時間的なゆとりが大きかったことが大きい。それは今まで学生が希望しても、献立の検討に調整の為に時間が必要になる場合が多く、更に数日若しくは数週間前の発注作業に伴う為、一部の施設からは現場の委託化の影響もあり、1週間の期間では実施できないと告げられる時間的な制約があったからである。しかし、今回、実習ノートや報告書から自主献立を3回実施させていただいた学生もあり、「給食の運営」の学習内容を自主献立によって経験できた学生が多いことになる。

## 7. ガイダンス的授業や実習報告書の活用について

前回と同様「現役栄養士の話」は学生にとって、一番参考になる内容であった。しかし、前回それに続いた「実習に対する心構え」や「実習に対する諸注意」や「礼儀作法について」な

どの精神的な内容より、実際の実習内容の情報が得やすい「先輩の実習ノートから」や「先輩の実習体験の話」や「実習課題について」などが増加したのは、単位増加したことにより、実習目的を持ったしっかりしたものにしていかなくてはならないと考える学生が増えた為と考えられる。また、施設や栄養士業務を紹介するビデオ教材が低かったのは、内容が古いためである。特に介護福祉施設の現場がここ数年法律の整備も進み、大きく変化してきているのに、ビデオ内容が旧体制の内容のままであったためである。最新の情報を踏まえた視聴覚教材が無い為、学生には状況を説明し、食事の形態や利用者への接し方などを学ぶように指導し、視聴させている現状である。以前に(社)日本栄養士会で製作し配布された「活躍する栄養士たち」のようなビデオが新カリキュラムに対応した内容で欲しい。「臨地実習」に向けても施設側、養成側双方で実習の質を確保するためにも必要と考える。また、受け入れ先の栄養士・管理栄養士と協力して自ら作成する必要性も考えるべきである。

先輩の実習報告書の活用が少しずつではあるが増加したのは、前回の結果を踏まえて、先輩の実習報告書の活用が有効であることを「社会活動の研究」の授業を通じて指導してきた結果や学生が実習に真剣に取り組んだ現れと思われる。

#### 8. 校外実習で最も大変であったこと、良かったことについて

校外実習で最も大変であったことは、今回(2単位)は前回(1単位)4番目であった「課題」が1番になった。これは、1週目に課題の準備をして2週目に実施する形で本格的に課題に取り組むことが多く見られた為と考えられる。また、最も良かったこととしては「人間関係・コミュニケーション」が1番であることは変わら

ないが、前回「社会経験ができたこと」という少し漠然とした項目が18.0%であったのが、9.8%になり、経験を具体的に表現した「大量調理の経験」11.8%、「自主献立の実施」4.9%がまとまった数値として数えることができたのは、実習内容が一定の成果を見られる状況であった為と考えられる。

#### 9. 校外実習の進路選択への影響については

進路選択への影響については、前回と比べて調査時期が1ヵ月半遅く、進路が決定してきている学生の比率が高くなってきているため、今回は比較検討できないと判断した。

### まとめ

栄養士法の改正に伴うカリキュラム改正で、本学においては校外実習を1単位から2単位に単位増加をした。単位増加したことにより、どのような教育効果をもたらしたか、前回(1単位)実施した「校外実習(給食管理実習Ⅱ)」に関するアンケート調査を今回(2単位)も実施し、以下の結果を得た。

1. 実習の印象・評価・期間については2単位(2週間)の実習期間を適切な期間と受けとめる学生が8割に達し、実習の印象として悪い印象を持つ学生がいなくなった。
2. 校外実習期間中の指導者については、単位が増加したことにより実習期間が長くなり、1単位の時より多くの職種の指導者から指導を受ける機会に恵まれていた。これは広い視野で栄養士業務・管理栄養士業務を捉えることに繋がり、実習の内容の充実に及ぶと考えられた。
3. 実習の事前準備の時間については、実習期間が長くなったために課題の作成や検討が、実習期間内に行うことができるゆとりが生じた為、時間が短くなった学生もいたが、全体

的には複数の課題の準備などで「40時間以上」がほぼ倍に増加した。

4. 実習の事前準備の内容は、1単位と比べ全体的に「実施献立など献立作成」が特に増加し、施設別では「学校給食施設」で1単位と同様に「栄養指導関連」の3項目が、「介護福祉施設」では2単位で「アンケート調査準備」に有意差 ( $p > 0.05$ ) が見られた。
5. 実習計画書の実習先からの提示は77.5%であった。
6. 実習で必要とされた能力では最重要としてあげたものの中では、1単位と比べて「学力」大幅に増加し、3つまであげた出現頻度では「礼儀作法」「学力」が前回同様60%台の高い数値になり、続く「精神力」が1単位と比べて11.9%増加して57.8%を示した。
7. 校外実習前にもっとつけておきたかた能力では質問形式の違いはあるが、1単位と比べて、「献立作成能力」では6.3%から38.2%なるなど全体的に大幅に増加傾向が見られた。これは、2単位に増加したことにより、自主献立実施の環境ができ、それと共に「献立作成能力」の必要性を実感した学生が多くみられた為である。
8. 校外実習のガイダンス的要素を含む授業では、精神的な内容より、実際の実習内容の情報が得やすい内容の項目が増加した。また、視聴覚教材の項目が減少していることから、新しい内容の視聴覚教材の必要性を感じた。先輩の実習報告書は1単位と同様に9割以上が参考にしており、活用内容は、全体的に増加傾向を示した。

校外実習において、単位増加による影響を調査したところ、単位増加により実習期間が長くなったことが、実習内容の充実や広がりにつながったことが分った。また、それに伴い確かな実力を付けておかななくてはならないことも学生・養成施設・実習施設が共に感じ、1単位よ

りも同一施設2単位実習の方が高い教育効果が得られることが確認できた。

今後、健康栄養学科において、臨地実習施設を選択する時に同一施設を選択する効果についても参考となる結果が得られた。

終わりに、本研究調査を実施するにあたり、校内実習（給食管理実習Ⅰ）担当の立場から田中律子先生にご助言、調査データ処理について助手の清水千晶先生にご協力をいただきましたことを心から感謝申し上げます。

## 参考文献

- 木藤宏子, 今井美樹, 新井田洋子, 豊岡千晶 (2003) 校外実習に関する調査研究 学生の取り組みと事前教育の影響について, 北海道文教大学短期大学部研究紀要 第27号
- 栄養調理関係法令研究会編集 (2003) 平成16年版栄養調理六法, 新日本法規
- 関友作他 (1998) SPSS for Windowsのやさしい使い方 基礎編, 株式会社アトムス
- 加藤千恵子他 (2003) SPSSでやさしく学ぶアンケート処理, 東京図書株式会社
- (社)日本栄養士会・(社)全国栄養士養成施設協会 編 (2002) 臨地・校外実習の実際 改正栄養士法の施行にあたって, (社)日本栄養士会・(社)全国栄養士養成施設協会
- 平成15年度給食管理実習Ⅱ様式B~D綴り (実習巡回報告書) (2003), 北海道文教大学短期大学部

## 資料1

## 校外実習（給食管理実習Ⅱ）に関わるアンケート

実習施設名	学籍番号	氏名
-------	------	----

校外実習（学校給食・福祉施設給食・自衛隊給食）について、下記の問について該当する答えを選び○をつけて下さい。

問1 校外実習を振り返った全体の印象はどうですか。

1. とても良かった 2. 良かった 3. どちらともいえない 4. 良くなかった 5. とても良くなかった

問2 実習期間（2単位2週間）の長さはどうでしたか。

1. 長い 2. 丁度よい 3. 短い

問3 問2で「1. 長い」「3. 短い」を選ばれた方にお尋ねします。どの位の期間が適切ですか。また、具体的な理由があったら記入してください。

（ 週間）（理由： ）

問4 校外実習の内容はどうでしたか。

1. 適切であった 2. ほぼ適切であった 3. 不適切であった 4. よく分からない

問5 問4で「3. 不適切であった」を選ばれた方にその内容についてお尋ねします。

1. 実習内容に偏りがあった 2. 栄養士の十分な指導を受けられなかった  
3. 持参した課題が実習先の都合で組み込んで貰えなかった 4. 内容が難しく十分体得できなかった  
5. その他（ ）

問6 実習期間中（事前打ち合わせを含め）指導を受けた人をすべて選んでください。

1. 栄養士・管理栄養士 2. 委託先の栄養士・管理栄養士 3. 調理員  
4. 施設長（学校長・センター長・業務隊長） 5. 事務長 6. 事務職員 7. 教務担当教諭  
8. 担任の先生 9. その他の先生 10. 副施設長（教頭先生） 11. 養護教諭 12. 介護職員  
13. 看護婦 14. 補給科長 15. 糧食班長 16. 調理長 17. その他（ ）

問7 事前準備にどれ位の時間を使いましたか。

1. 3時間以内 2. 5時間位 3. 8時間位 4. 16時間位 5. 24時間位 6. 32時間位  
7. 40時間以上

問8 事前準備の内容について選んでください。（複数回答あり、時間を一番使った内容には◎をつけて下さい）

1. 栄養教材の制作 2. 実施献立など献立作成 3. 栄養指導案作成 4. アンケート調査準備  
5. 実習課題の決定 6. 栄養指導の練習 7. 実習に向けての勉強 8. その他（ ）



問9 事前準備は十分でしたか。

1. 十分だった 2. 少し不十分だった 3. 不十分であった

問10 事前打ち合わせ（電話も含む）は適切でしたか。

1. 適切だった 2. 少し不適切だった（後から確認が必要なことが出た）  
3. 不適切だった（分からないことが多かった，実習に生かされなかった）

問11 実習計画書（実習予定表など）を渡されましたか。

1. はい 2. いいえ

問12 問11で「1. はい」を選んだ方にお尋ねします。実習計画書を渡されたのはいつですか。

1. 事前打ち合わせ時 2. 事前打ち合わせ終了後実習が始まるまでの間 3. 実習初日  
4. その他（ ）

問13 実習で必要とされた能力（学習面・技術面・精神面・礼儀作法など幅広く考える）はどのようなものでしたか。重要度が高い順に具体的に3つ挙げてください。

1. ( )  
2. ( )  
3. ( )

問14 校外実習において，校内実習（給食管理実習Ⅰ）で体得した能力で最も活用した力は何ですか。

1. 調理技術 2. 集団調理技術 3. 献立作成 4. 礼儀・身づくり 5. 教材（媒体）作成  
6. 給食管理理論 7. 事務管理（帳票の作成） 8. 衛生管理 9. コミュニケーション力  
10. 作業管理 11. その他（ ）

問15 校外実習前にもっとつけておきたかった能力を挙げて下さい。（複数回答あり）

1. 基礎学力 2. 調理技術 3. 栄養指導力 4. 献立作成能力 5. コミュニケーション力  
6. 施設に対する知識 7. 体力 8. 精神力 9. 栄養教材（媒体）作成技術  
10. 一般常識（礼儀） 11. その他（ ）

問16 「社会活動の研究」の実習前の授業で参考になった内容はどのようなことですか。（複数回答あり）

1. 現役栄養士の講話 2. 先輩の実習体験の話 3. 先輩の実習ノートから  
4. 事前打ち合わせの諸注意 5. ビデオ「活躍する栄養士たち（学校給食編）」  
6. ビデオ「活躍する栄養士たち（福祉給食編）」 7. ビデオ「こんにちは老人ホームです」  
8. 実習に対する心構えについて 9. 礼儀作法について 10. 実習ノートの記入について  
11. 実習課題について 12. その他（ ）

問17 図書館にある先輩の「実習報告書」は参考にしましたか。

1. 参考にした 2. 参考にしなかった

問18 問17で「1. 参考にした」と答えた方にお尋ねします。それはどのような時参考にしましたか。(複数回答あり)

1. 実習先の選択時
2. 実習課題の参考
3. 事前学習
4. 実習報告書の作成時
5. その他( )

問19 校外実習で最も大変だったことは何ですか。

( )

問20 校外実習で最も良かったことは何ですか。

( )

問21 校外実習はあなたの進路選択に影響を与えましたか。

1. はい
2. いいえ
3. どちらともいえない

問22 問21で「1. はい」と答えた方にお尋ねします。それはどのような影響ですか。

1. 栄養士の仕事に就きたい
2. 栄養士の仕事に就きたくない
3. 管理栄養士課程に編入学を考えた
4. 調理師の資格を取りたい
5. その他( )

ご協力有難うございました。後輩の実習指導の参考にさせていただきます。 木藤宏子